

まえがき

学校現場では、2017（平成 29）年度からの学習指導要領の改訂にともない、「地域とともにある学校」の実現をめざしながら、これからの社会を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育むための「社会に開かれた教育課程」の実現が求められている。また、地域では、人口構造や社会構造の変化に対応して、住民が主体的に課題解決に向けた実践を進めるための仕組みづくりや、立場や世代を超えて人びとが学び合える社会関係づくりが重要とされる。学校教育と社会教育の双方の視点から、学齢期に閉じない生涯学習の視野をもって、子どもから成人、高齢者までの学びをデザインする知識と技能が必要な時代になっている。

このような社会の動きのなかで、本書の中心的テーマである「対話」「学び合い」「支援」という言葉を耳にすることが多くなった。例えば、学校で推奨されるアクティブ・ラーニングは、対話的な学びを前提にしており、公民館などでもワークショップ形式の講座が多くを占めるようになった。しかし、その多くは表面的な話し合いに終始しており、私たちに変容をもたらすような対話や、相互に認識を深めるための学び合いとなっているかは疑わしい。対話や学び合いの実践的スキルを高めるだけでなく、その原理に立ち戻ることが必要だろう。

また、さまざまな問題を抱える地域社会では、長期にわたって当事者に寄り添う形での支援が推奨される場面が多くなっている。しかし、支援される側がどのような状態に至ることを目標とするのか、支援する側はいつまでどのように関わるのかは明らかでない。加えて、支援する側とされる側はどのような関係であるべきか、支援する側が自らの姿勢や関わり方を問い直し、共に成長していくにはどうすればよいのか、そもそも支援をする側とされる側という二分法で考えてよいのかなど、追究すべき論点は数多い。ところが、これらの疑問に答え、地域のなかの学び合いをコーディネートしていく方法を示す体系

だったテキストは存在しない。

おりしも、社会教育主事の養成課程や講習では「社会教育経営論」とともに「生涯学習支援論」が必修科目として新設された。また、学校では総合的な学習（探究）の時間を中心に地域課題解決型のプロジェクト学習やキャリア教育とふるさと学習が進められ、大学でも地域創造や地域連携を掲げる学部が発足し、サービスマーケティングなどの地域社会に参画する学習実践が取り組まれている。これらの動向を受けて、大学における教員養成課程や社会教育主事養成課程の選択必修科目、あるいは教職大学院などでの演習科目の教科書となり、現職教員や教育委員会での研修や、NPOなどの非営利組織で職員の力量向上の機会にも活用できる入門・基礎レベルのテキストを企画するに至った。

姉妹編となる『地域教育経営論』（2022年9月刊行）では、地域における組織経営や、組織間のパートナーシップ、地域づくりのデザインというテーマを中心に扱った。これに対して、本書『地域学習支援論—学び合える社会関係のデザイン』には、成人の学習に関する基礎的理解を深め、人びとの生涯にわたる学び合いの形を描き、その基盤となる良好な地域社会をつくりあげていくための基本姿勢と具体的な支援方法に関する論稿を収録した。本書を通じて、学びの場のファシリテートと、地域の社会関係のコーディネートについての理解を深めていただければ幸いである。

本書は四つの部で構成される。まず、第Ⅰ部「生涯にわたる学びをどう理解するか？」（6講立て）では、私たちの教育や学習のイメージをとらえ直すために、学校教育の問い返し、社会教育の特徴、大人としての成長・発達の支援といったテーマを扱う。この部を通じて、私たちの生涯にわたる学びの特徴をおさえてほしい。第Ⅱ部「学び合いをどうつくるか？」（7講立て）では、学びの場をファシリテートしていく実践的方法を順に学ぶことができる。具体的には、対話の場のデザイン、問いかけの方法、ワークショップの組み立て、学びの場づくりとふりかえりの方法、学びの評価といったテーマを取り上げる。

第Ⅲ部「地域と学校で子ども・若者をどう育てるか？」（7講立て）では、各学校段階における地域と関わる学習の組織化、放課後の学びや貧困世帯や外国ルーツなど多様な背景をもつ子どもたちへの支援、地域と学校の間の架け橋

の築き方を扱う。そして、第Ⅳ部「地域に持続可能な実践をどうつくりだすか？」(8講立て)では、地域社会における学習実践を継続するために、感染症や公害、災害に向き合うなかでの学び、高齢者・障がい者・子育て家庭に対する学びの支援、ユースワークや公民館実践を持続可能なものにする方法について学ぶ。

本書の最大の特徴は、学習支援に実際に臨む学生・教員・職員が、支援に携わる際の心持ち(マインドセット)を形づくり、実践的スキルを向上させられるよう、各講を短めの構成とし、その代わりに28講すべてにワークを配置したことである。各講の執筆は、現場での実践経験を一定程度積んだ中堅以上の研究者・実践家に依頼し、各執筆者には、現場での学びの支援にあたるなかで直面する課題とその解決方法を、本文とワークの内容に落とし込んでもらった。ワークを通じて、実践のなかで支援者の辿る思考過程をなぞることができるだろう。授業や研修でテキストを使用していただく際には、別冊のワークシートも活用して、受講者同士の話し合いを積極的に取り入れ、学習支援に関する理解を深めてほしい。

最後に、自戒をこめて、このテキストを活用いただく際の注意点を1点だけあげておきたい。それは、個々の講に書かれていることを読んで、地域での学習支援について「わかったつもり」になることである。各講を読む際には、一つひとつのテーマについて、自分自身が学習者の立場だったらどうふるまうのか、支援者であればどのような関わりをしていくのか、常に想像をしてみしてほしい。このことが、自分自身が学びの場とする姿勢や、支援の際にとるアプローチを問い直すことにつながるだろう。

本書が、学びの支援に関わる人びとの実践的力を高めていくための教材として、長きにわたって活用されることになれば幸いである。

2024年9月

編者を代表して 荻野 亮吾

*注記

- ・本文中で参照している URL の最終閲覧日は、2024 年 9 月 30 日である。
- ・ワークシートは、大学教育出版の Web ページからダウンロードできる。

URL : <https://www.kyoiku.co.jp/06support/chiikigakushu.html>。



地域学習支援論

——学び合える社会関係のデザイン——

目次

まえがき	i
------	---

第 I 部 生涯にわたる学びをどう理解するか？

第 I 部 解説	2
----------	---

第 1 講 すべての人の生涯にわたる教育とは？	4
-------------------------	---

1. 人の一生と教育領域
2. 学校の特性からみる教育行為
3. パウロ・フレイレの「銀行型教育」と「課題提起教育」
4. 社会教育・成人教育の学習機会と支援の多様性

第 2 講 学びを生み出す仕組みとは？	12
---------------------	----

1. 生涯を通じた教育の理論と類型
2. 学びを生み出す日本の教育体系
3. 多様性のなかで生み出される学び

第 3 講 大人はどう発達するか？	19
-------------------	----

1. 大人の発達をどうとらえるか
2. 成人期の発達のとらえ方①—発達段階・ライフイベント・過渡期
3. 成人期の発達のとらえ方②—発達へのナラティブ・アプローチ
4. 生涯にわたる発達をどう支援するのか

第 4 講 働く世代はどう学ぶか？	29
-------------------	----

1. 働く世代の学習の現況
2. リカレント教育とリスクリング
3. 職場での学習を支えるもの

第 5 講 市民としての成長には何が求められるか？	36
---------------------------	----

1. 大人になるとは—18歳成人と市民性
2. 成人教育の三つの要素—識字教育・職業教育・シティズンシップ教育
3. アクティブ・シティズンシップ教育とは何か
4. 自分が変わり社会を変える大人のアクティブ・シティ

ズンシップ教育

第6講 大人の「学びなおし」をどう支えるか？	43
1. 大人の「学びなおし」とは 2. 基礎教育保障を担う学習の場 3. 国際的にも推進されてきた基礎教育保障 4. すべての人が学びから取り残されない社会に向けた学習支援	
第I部 参考文献・資料	50
第I部 さらに学びを深める資料	52

第II部 学び合いをどうつくるか？

第II部 解説	54
第1講 対話に基づいた学びをどうつくりあげるか？	56
1. 対話がなぜ成り立たないのか 2. 対話と他のコミュニケーションの違い 3. 対話を通じた学習 4. 対話の場づくりに向けて大切にすべきこと	
第2講 学びに向けてどう学習者に問いかけるか？	63
1. 教育における「問いかけ」の意味 2. 質問・発問・問いの違い 3. 問いを立てる学習 4. 意識変容を促す問いかけ	
第3講 学び合うワークショップをどう組み立てるか？	69
1. ワークショップとは何か 2. ワークショップの組み立て方 3. ワークショップの運営	
第4講 対話と学びの「環境づくり」をどう進めるか？	77
1. 対話と学びの「環境づくり」とは 2. 対話と学びの空間をどのように	

つくるか 3. 対話と学びの場における懸念や不安を取り除く 4. 多様性に配慮した環境づくり

第5講 オンラインでの学び合いの「環境づくり」をどう進めるか? …… 85

1. メディアコミュニケーションの特質について 2. オンラインのメリット・デメリット 3. オンライン講座の準備における検討事項と実施上の工夫 4. オンライン・対面の両方を活用した学び合いの環境づくりの課題

第6講 ふりかえりはなぜ大切なのか? …………… 93

1. 学習とふりかえりの関係 2. リフレクション／省察について 3. 学習支援者のふりかえり 4. ふりかえりの具体的な方法

第7講 学習の評価をどう行うか? …………… 100

1. 教育プログラムにおける評価の重要性 2. 生涯学習プログラムの評価方法 3. 生涯学習プログラムの評価における留意点 4. 生涯学習・社会教育の評価の特性

第Ⅱ部 参考文献・資料 …………… 108

第Ⅱ部 さらに学びを深める資料 …………… 110

第Ⅲ部 地域と学校で子ども・若者をどう育てるか?

第Ⅲ部 解説 …………… 114

第1講 小・中学生の「ふるさと教育」をどう進めるか? …………… 116

1. 子どもにとってのふるさと 2. 地域学習と「ふるさと教育」の展開
3. 「ふるさと教育」における学習支援 4. 地域をつくる主体としての小・中学生

第2講 高校生のプロジェクト型学習の支援をどう進めるか? …………… 123

1. なぜ高校生のプロジェクト型学習が大切なのか
2. プロジェクト型学習をどのように進めるか
3. 高校生のプロジェクト型学習にどのように伴走するか

第3講 大学と地域での学びをどう進めるか? …………… 129

1. 大学における地域での学びの進め方と方法
2. 大学生の地域での学びの意味— 地域協働を学ぶということ
3. 大学生の育ちをつくるために

第4講 子どもの放課後の学びをどう支えるか? …………… 136

1. 子どもの放課後の学びとは何か
2. 子どもが生活主体となりうる放課後支援
3. 学童保育における生活を通した学び
4. 共生教育を実践する指導員の専門性

第5講 多様なバックグラウンドをもつ子どもたちの学びと生活をどう支援するか? …………… 143

1. 学校外の学びの場にはどんな子どもたちが集まるのか
2. 地域のなかに無料学習教室を開いた経緯
3. 無料学習教室での子どもたちへの関わり
4. 子どもの学びと生活の支援とは

第6講 外国ルーツの子ども・若者たちの明るい将来ビジョンをどう育むか? …………… 149

1. 外国ルーツの子ども・若者とは
2. 外国ルーツの子ども・若者へのエンパワメント
3. 多文化共生に向けた文化的マジョリティの国際理解促進
4. 教育関係者に求められること— 外国ルーツの子ども・若者が明るい将来ビジョンを描けるように

第7講 地域と学校の「協働」をどう深めるか? …………… 155

1. 地域学校協働活動とは何か
2. 地域と学校の協働を推進するコーディネ

ネーターの役割 3. 地域学校協働活動の深まりを生み出す方法 4. 地域と学校の「協働」の推進役の成長

第Ⅲ部 参考文献・資料	162
第Ⅲ部 さらに学びを深める資料	164

第Ⅳ部 地域に持続可能な実践をどうつくりだすか？

第Ⅳ部 解説	168
--------	-----

第1講 学びを止めないためにどんな支援が大切か？ 170

1. 学習の権利に対する行政の役割
2. 生きるための学びと教育施設の支援
3. コロナ禍における公民館の学習支援
4. 学びを止めない土台づくり

第2講 当事者の経験をどう言語化するか？ 176

1. 公害と地域再生
2. 水島と困難な過去
3. 『水島メモリーズ』による記憶の継承
4. 学びを支援していく際の工夫

第3講 被災地における支援をどう継続するか？ 183

1. 大地震・津波の被災と住まいの再建
2. 仮暮らし期の生活課題と支援環境
3. 住宅復興後の地域生活に向けた支援
4. 個人と地域をつなぐアセット・ベースド・アプローチ

第4講 障害者の学習を地域でどう支え続けるか？ 190

1. なぜ障害者にとって生涯学習が必要なのか
2. 障害者の権利とは
3. 障害者と支援者の関係性を考える
4. 障害者が地域の一員となるのを支えるために

第5講 高齢者を中心とした地域活動をどう継続するか？	196
1. 高齢者の社会参加 2. 高齢者の地域社会との関わり 3. 活動への主体的な関わりと学び合いの支援 4. 高齢者を中心とした地域活動の継続と継承	
第6講 子育て支援を通じて地域のつながりをどう育むか？	203
1. 子育てを取り巻く環境の変化と子育て家庭の「孤立」 2. NPO法人「せたがや子育てネット」の取組み 3. なぜ「子育ての共同化」が必要なのか 4. 子育てを支える地域をつくるために	
第7講 ユースワーカーの省察をどう支援するか？	210
1. ユースワークとその特徴 2. ユースワーカーのマインドセットと役割 3. ユースワーカーの力量形成と省察の方法	
第8講 地域の変革に向けた学習の循環や継続をどう生み出すか？	217
1. 地域の変革に影響を及ぼす学習とは 2. 繁多川公民館の取組み 3. 地域の誇りを実感できるプロセスづくり 4. 変革につながった三つの事例 5. 自らが住むまちを変革し続ける地域力	
第IV部 参考文献・資料	225
第IV部 さらに学びを深める資料	228
索引	230
執筆者一覧（掲載順）	235